

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol intake is significantly associated with atrial flutter in patients under 60 years of age and a shorter right atrial effective refractory period.</p> <p>アルコール摂取は 60 歳未満の患者の心房粗動、shorter right atrial effective refractory period と有意に関連している。</p>	
執筆者	
Marcus GM, Smith LM, Whiteman D, Tseng ZH, Badhwar N, Lee BK, Lee RJ, Scheinman MM, Olgin JE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pacing Clin Electrophysiol. 2008 Mar;31(3):266-72.	
キーワード	
心房細動、心房粗動、アルコール、refractory period, atrial effective refractory period (AERP)	
要 旨	
<p>背景： アルコールが心房細動(AF)に関連することは科学的に示されているが、アルコールと心房粗動(AFL)との関連は検討されていない。アルコールと心房性不整脈をつなぐメカニズムはいまだ知られていない。</p> <p>方法： アルコール摂取に関しては 195 人の AF, AFL の患者で測定され、対照群には他の上室性不整脈 (n=132) と健康な対象(n=54)とした。老年者における心房性不整脈の重要な競合リスク要因のために、年齢による層別化がなされた。サブセットでは、atrial effective refractory periods (AERPs) が high right atrium and proximal と distal coronary sinus. から収集された。</p> <p>結果： AF と AFL の患者において、毎日飲酒者である傾向が有意であった (27%、対照は 14%で、P=0.001)。多変量解析において、60 歳以下の AFL 患者ではコントロールに比べて、毎日飲酒者の傾向であった(オッズ比 17、95%信頼区間 1.6-192、P=0.019)。より頻回のアルコール摂取は 60 歳以下の AFL のオッズと有意に関連していた(P=0.045)。AF もしくは 60 歳より上の AFL では、多変量調整した後も明らかに有意な関連が見られなかった。右の AERPs は、アルコール摂取量が増加するにつれ有意に短くなった(P=0.025)。一方、左の AERPs はアルコール摂取量との関連がなかった。</p> <p>結論： アルコール摂取は若年の AFL の患者とは正の関連がある。このメカニズムは右の AERP の短縮と関連するかもしれない。</p>	